

令和2年度「ひとり1改革運動」 9月推進月間改革賞受賞事例紹介

QRコード活用によるデータ入力等の省力化(個人事業税)

【沼津財務事務所 直税第1課 個人課税班】

QRコードの活用で職員の負担を大幅に軽減

沼津財務事務所では、個人事業税の課税にあたって、Excelファイルの台帳を作成しており、そこには、各種資料をもとに行った課税の有無等の判定結果が記録されています。これまで、同台帳の作成にあたって、紙媒体で行った約15,000人分の判定データを班員3人が約10日間かけて入力していました。

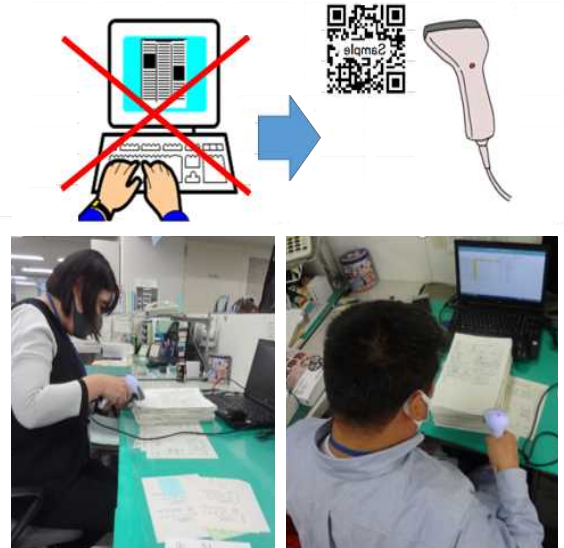
今回、入力作業を省力化するため、課税判定に使用する資料の1つにQRコードを付けて印刷し、課税の判定後にそのQRコードを読み取ることで、台帳に自動で対象者の判定結果が入力されるようデータベースを作成しました。

その活用の結果、入力時間が約72時間削減されると共に、班員以外の者でも台帳作成が行えるようになり、班員の負担が大幅に軽減されました。

個人事業税の課税判定資料にQRコードを表示



約15,000人分の判定結果を台帳に入力



入力の様子

【静岡大学 牛場 准教授 から一言】

事務作業の生産性の向上には、導入手段における様々な負担やコストの低減が課題です。

本事例ではQRコードとエクセルのマクロといった既存のツールの組み合わせで、その解決がはかられています。

QRコード自体もカイゼンから生まれ標準規格となったように、今後の水平展開にも大いに期待できます。

ICT機器を活用した防災教育の推進

【中部地域局 危機管理課 危機管理班】

タブレット端末を活用した防災講座

中部地域局危機管理課では、管内の小中学校で防災講座を開催しています。これまで、職員が講師となり、パワーポイント等の資料を用いて、子供たちに必要な防災の知識を伝達していましたが、データの更新や最新の防災資料の提供、興味ある講座の展開などで課題がありました。

このため、新たにタブレット端末用アプリ「静岡県防災学習(地震)」を作成しました。同アプリを活用することで、最新の防災資料の提供が容易になるとともに、講師と子供たちの端末の連動によって、講師からの問いかけや防災クイズを通じた双方向のコミュニケーションが図られるなど、子供たちが主体的に考え、授業に参加する機会につながりました。さらに、アプリの活用によって、防災に関する専門知識がない学校教諭等でも一定水準以上の防災教育を展開することが可能となり、防災講座開催の拡大が期待できます。



居住地の危険度を自ら調べる



学校教諭による授業実施



防災クイズをみんなで考える



回答を集約し共有する

【静岡県立大学 木村 講師 から一言】

講座の内容や成果は、担当者の努力と力量に左右されがちですが、そうした課題を的確に捉え、業務省力化と質の向上に共に取り組み、業務効率を上げたことは高く評価されます。

また、参加型学習環境の提供や、専門知識を求めない活用のしやすさにより、防災教育がより身近になったことは大きな成果です。

